



大山

Oyama



栗をまとった春告草 少し早い春便り

3月3日、おおくぼ台梅園で「日田おおやま梅まつり」のイベントが開催された。当日は、あいにくの雨で梅娘認証式と神事のみとなったが、見頃を迎えた梅園に多くの人々が来園し、春の訪れに触れた。また、10日はふるや台でイベントが行われ、吹奏楽や手話サークルの歌に来場者は和やかなひとときを楽しんだ。



山は水瓶 未来へつなぐ桜に願いを

2月23日、田来原美しい森づくり公園で「植樹祭」が行われ、約160人の参加者が河津桜や大山桜など5種300本の植樹を行った。家族や友人との参加も多く、「今日は私の誕生日。記念の植樹です」「何気なく使っている水が貴重な資源だと改めて考えるきっかけになった」など、植樹交流を楽しんだ。



日田

Hita



日米の平和と友情の願い

2月16日、三隈幼稚園児による「青い目の人形パレード」が開催された。青い目の人形は1927年にアメリカから日本に平和と友情を願い贈られたもので、三隈幼稚園に2体保存されている。このパレードは今回で13回目を迎え、青い目の人形を抱え人力車に乗った園児を中心にJR日田駅前から三隈幼稚園までの道のりを練り歩いた。



高校生が仕事や将来を考える

2月12日、パトリア日田大ホールで市内各高校の代表生徒が実行委員となり、企画・運営・広報の全てを行う「僕らのみらい会議」が開催された。APU立命館アジア太平洋大学の出口学長の講演やパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、生徒から活発な意見があり、仕事や将来を考える場となった。

上津江

Kamitsue



受け継がれるふるさとの味

雉谷地区農産物加工グループ「ふれあいの里きじや」には35年以上作り続けている味噌「おふくろ心」が受け継がれている。材料は麴（米・麦）、大豆、塩で添加物は一切使わず、味噌の風味をよくするために一年近く自然発酵させている。メンバーは「たくさんの方が携わり味を守ってきた。これからも永く作ってきたい」と話していた。



いつまでもお元気で

2月14日、白草公民館で都留地区ミニデイが開催された。上津江地区社会福祉協議会の高橋会長から「共に助け合い笑い合い、長生きしましょう」と挨拶があった後、参加した高齢者26人に南部包括支援センター職員が「歯の健康や歯ブラシの使い方」について分かりやすく説明。その後はゲームをしたり歌ったりと楽しい時間を過ごした。



雨にも負けず駆け抜ける

3月10日、日田市陸上競技場を主会場に「第20回天領日田ひなまつり健康マラソン大会」が開催された。あいにくの雨模様の中、市内外から1,426人のランナーが参加し、春の日田路を駆け抜けた。また、レース後は、自衛隊による豚汁の提供や天ヶ瀬温泉の足湯など、400人以上のボランティアが参加者をもてなし、大盛況だった。



川魚の活用で交流

2月19日、昭和学校高等学校で日田の川魚（アユ、ヤマメ、ホンモロコ等）をメイン食材に活用した「第7回川魚料理試食会」が開催された。市内料理人を講師に、将来の飲食業の担い手となる高校生が川魚料理を完成させた。最後に試食が行われ、高校生と料理人の交流と地域資源としての川魚について考える場となった。